

電子機器用・通信機器用部品製造業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物(小)	事故の型	労働者規模
2017	1	8～9	工場敷地内の駐車場から従業員玄関へ徒歩で移動しているとき、雪道で右足が滑り、左足で支えようとしたところ左足も滑り、足先が外に向いてそのまま転倒した。大型の除雪車（ブルドーザー）で除雪した雪道が、所々滑りやすくなっていた。	41	719	2	50～99
2017	1	8～9	構内駐車場に車を止めて、従業員玄関前を歩行中に、凍った路面に足を滑らせ転倒し、臀部を強打し、骨盤を骨折した。	58	719	2	100～299
2017	1	9～10	作業室内にて植木鉢用の台を作成するため、電動丸鋸を用いて細い木材を裁断中に木材の節（ふし）に刃がかかった際、キックバックが起きて刃が戻ってしまい、木材を抑えていた手がズレて刃に触れてしまった為、左手中指の指先を1～2cm程度切ってしまった。	74	131	8	1～9
2017	1	12～13	検査室内において、製品の電気漏れ確認のため機器（絶縁耐圧絶縁抵抗計）を設定していたとき、output側から垂らしていたリード線のワニ口クリップに右拇指が接触した際に感電し、右拇指から肩にかけて負傷した。	47	359	13	—
2017	1	14～15	被災者は、弊社工場内にある自動ラベル貼付機による作業中に、作業の終了した製品が収納されているトレーが装置エレベーターに載って自動降下中にも関わらず、本体カバーを開け当該トレーのみ取り出そうとしたために、誤ってエレベーター板ごと掴んでしまい、降下したエレベーター板と装置本体の間に左手薬指を挟まれ被	54	169	7	—

			災してしまった。				
2017	1	5~6	第三駐車場横歩道にて退社するため、第二駐車場に駐車した自車に向かって歩行していたところ、底面がフラットなブーツを履き、両手に荷物を持った状態で凍結したアスファルト上を歩行中、左足を地面についた際に滑って前方へ蹴り出すような形になり、荷物を持っていたため受け身が取れず、お尻から転倒し、地面に強く打ちつけ、尾てい骨を骨折した。	47	719	2	100 ~ 299
2017	1	20~ 21	駐車場の側溝に足を取られて右手をついたところ、右手首を骨折した。	53	418	2	100 ~ 299
2017	1	9~ 10	前日からの雪がまだ残っており、出勤時、工場内の従業員入口側が影になっていて地面が凍結していて注意しながら歩いていたが、凍結した地面で足を滑らせ転倒し、右手を突っ張り、右手首を骨折してしまった。	55	418	2	100 ~ 299
2017	2	3~4	構内道路をホイロローダーで除雪している際、バケットが道路を横断しているグレーチングに引っ掛かり急停止し身体が前に投げ出され、フロントガラスに頭部をぶつけた。	63	141	3	300 ~ 499
2017	2	5~6	入社時、会社駐車場内を玄関に移動中、凍結路面で足をとられ、尻もちをつき仰向けの状態で後頭部を強打する形で転倒した。	52	417	2	30~ 49
2017	2	19~20	完成品を配送車で運び積荷を車から降ろし、車内を清掃中車内の天井に頭を打った。	66	221	3	50~ 99
2017	2	20~21	工場建屋内のパネルメッキ工程において、パネルメッキの治具ストックヤードで玉突きが発生した。詰まった治具を取り出す際に誤って治具を噴流ポンプ配管に接触させてしまい、配管を破損した。破損部分より薬液が噴出し、身体全体に薬液がかかり、眼内にも薬液が入り炎症を負った。	54	514	12	100 ~ 299
			工場内にて塗装前処理作業で、鉄板で作った箱体の被膜を取る為に				10~

2017	2	14~15	脚立に乗りシンナーで拭いていた時、足下を確認せずに移動したため足を踏み外して脚立から落下し、頭を強打した。	64	371	1	29
2017	2	20~21	派遣会社送迎バスにて出社時、送迎バスにて出社時に、バス降車後数歩歩いた後、ふらつく様に転倒した。その際、駐車場アスファルトにて顔面を打ち付け負傷した。被災者には持病（糖尿病）があり過去にも低血糖状態となり、何度かふらつきを発症している。	49	921	2	500 ～ 999
2017	2	19~20	作業機で、作業の片付けをしている時に、パイプカットに使用していたアートカッターの保護キャップが半挿しになっていることに気が付き保護キャップを置くまで押し込もうとした。手元まで持って来た際は、保護キャップは付いていたが、手元から目を離れた間にキャップが脱落した。キャップの脱落に気付かず、左手のひらに刃先を押し当てた。	42	364	8	50～ 99
2017	2	14~15	交差点を青信号にて右折待ちし、対向車が通過の後右折を実施した。右折中に左方確認の次に右方確認して進み、視線を正面に戻した際には、左方からの歩行者に気付いてブレーキを掛けたが間に合わず、歩行者に衝突した。（横断歩道上かは不明）右方確認した際の視認が出来ていなかった。	53	231	17	1～9
2017	2	20~21	派遣先である事業部内の作業場で空のラックを移動させようとした時、ラックのタイヤが横向きに向いている状況で動きにくかったため、勢いよく手前に引いて動かそうとしたところ、ラックが倒れてきて下敷きになった。	35	362	6	30～ 49
2017	2	8~9	書類を書くため眼鏡を取りに会社内の階段を下りた際、最後の1、2段を踏み外して負傷した。	69	413	1	10～ 29
2017	2	14~15	工場（仕上工程）内で、切削機械の注油部ノズルの先端を触って、油缶を調整しようとし、手袋をした左手を近づけた時、回転していたカッターで左手人左飛指を負傷した。	46	159	8	30～ 49
			出庫ヤードにて、フォークリフトによる原料の搬入作業と雪による倉庫床面のタイヤ痕清掃作業を2人1組で行っていた。清掃作業者				100

2017	3	13~14	が在庫ヤード内のグレーチング部分でモップの水切りを実施中、バックしてきたフォークリフトと接触し、右足を挟まれ骨折した。	38	222	6	~ 299
2017	3	15~16	旧工場から新工場へ走りながら移動している際、通路の段差につまづき転倒し、手をついた時の衝撃と肩を地面にぶつけたことで負傷した。	46	417	2	—
2017	3	12~13	被災者は、派遣先にて子基盤のハンダ付け業務に就いていた。クリーンルーム内で会社指定の静電靴をはいて作業していた際、静電靴をはいて廊下を歩いていたとき、靴の底が滑りにくいため床の摩擦で引っかかり転倒しそうになった。とっさに壁に左手をついて転倒を防ごうとしたが、勢いが強かったためそのまま左肩を脱臼した。	43	417	2	100 ~ 299
2017	3	8~9	装置メンテナンス作業中、チャンバーとヒンジ部の位置ズレのトラブルが発生し、位置ズレを修復するために、タンバーを取り外す作業が発生した。ダンパーを取り外した際に、チャンバーリッドが落ち、ヒンジ部に小指を挟み骨折した。	39	169	7	1000 ~ 9999
2017	3	16~17	5階作業場にて、プラスチック成型品に導線を差し込み固定したり、その導線を接着する作業を行っている時に、複数の高さの違う作業台を使い立ち作業をしていた際、腰を捻る動きや反るような動きもあり、足元のペダルの位置も体に合っていなかったため、腰に激痛がはしった。	38	921	19	10~ 29
2017	4	10~ 11	事業所内で午前休憩中、2階から階段を下りて1階の職場に戻る際、1階に近い階段で足を踏み外して1階床上に転倒し、右膝を強打した。階段を下りる際に、歩きながら何かをしていたわけではなく、通常通り階段を下りていた。	47	413	1	100 ~ 299
2017	4	17~ 18	終日、床にマスキングテープを貼る作業をしていた。起居（立ったり座ったり）による屈伸の繰り返しにより両膝を痛めた。筋肉痛と思い様子を見たが、翌朝に膝の痛みが強くなった。	58	921	19	10~ 29

2017	4	13~ 14	台車を操作していた他の従業員が、引き戸の前で停止していた。 後から来た本人が、この戸を代わりに開けてあげようと前に回り込もうとした際、誤って台車を操作していた従業員の足に本人の足が引っかかってしまい、勢いよく転倒し支えようとした右手を床に強くつき負傷した。	53	911	2	100 ~ 299
2017	5	11~ 12	納品先へ向かう運転中に、不注意により対向車線にはみ出し、ダンパーと正面衝突し、車の中で挟まれ骨折した。	64	231	17	30~ 49
2017	5	19~ 20	成型機（23号）のランナー（プラスチックのくず）が自動的に入り溜まるゴミ箱にランナーが盛り上がり溜まっていたので、右手で上から押し込む際に、右手母指が少し変に曲がったような感じがあった。	24	921	19	100 ~ 299
2017	6	14~ 15	木枠梱包作業時、材木を押さえ、釘打ち機で釘を打ったところ、釘が曲がり左手に刺さった。	67	139	8	10~ 29
2017	6	11~ 12	入社して実業務3.5日目の午前中に、銀シートが入ったダンボール（400×400×100、重さ20kg）を開封する為、パレット（高さ150）に載った所から床面へと降ろそうと、両手でダンボールを持ち上げた時に、左手首に違和感があった。以降の作業においては、左手首から前腕内側にかけて痛みが伴っていたが、作業を続した。家に帰ってからは痛みのためにシップを貼り就寝したが、翌朝には腫れも生じていた。	43	611	19	1000 ~ 9999
2017	6	16~ 17	被災者は、工場内でエアープレス1機をセット中に、上部レバーと本体の間に左手小指の腹を挟み破傷し、病院にて傷口を縫った。	59	154	7	1~9
2017	6	9~ 10	絶縁ゴム製品をモールドする設備で、材料となるリールに巻かれた帯ゴムを設備スクリューに挿入する作業で発生したものである。 設備へ投入時、右手に装着していた手袋を取って、帯ゴムを持ちスクリュー投入口へ持っていった。しかし、フィードローラー手前で帯ゴム同士が密着していることに気付き、引き剥がそうと咄嗟に手袋をした左手を出したところ、帯ゴム同士の層間に、着用してい	50	169	7	50~ 99

			た手袋の親指部分が挟まれ、そのまま左腕が巻き込まれる状態となり被災した。				
2017	6	13~ 14	工場内にて、チューブカット機を使用してチューブを切断している時、チューブが機械出口で詰まり、機械を止めずに詰まったチューブを除去しようとした際、右手親指・人差指の指先を切断した。	43	159	8	30~ 49
2017	6	16~ 17	梱包作業場の中にある運搬用道路にて被災者が移動中、工場内物流運搬台車と両方向より鉢合わせとなり、被災者はこれを避ける為、道路右側に回避行動をとった際、支柱（鉄製のパイプ）に右手の小指側をぶつけた。	29	362	3	300 ~ 499
2017	6	9~ 10	工場内にて、卓上ボール盤を使用して、鉄板の穴あけ作業中、穴あけした鉄板をボール盤の台より動かそうとしたところ、右手薬指の先端が誤ってボール盤のドリルの先に引っ掛かり、そのため右手がドリルに巻き込まれ、右手薬指を負傷した。	54	152	7	10~ 29
2017	7	9~10	レーザー作業中、作業台に置いてあるレーザーの加工材料に引っかかり、転倒してしまい右膝を負傷。	45	521	2	1~9
2017	7	15~16	会社内で成形作業中に、ラックモーターの修理をしようとした時に、成形機と横走行取出機を停止させずに、作業をしたため、後頭部とおでこをぶつけてしまった。	57	169	6	100 ~ 299
2017	7	16~ 17	印刷作業開始時に、スクリーン版をフレームに固定する作業を行っていた時に、フレーム固定用のロックピン部分に手を置いた為、下降したフレームの固定部とスクリーン版の固定部に右手人差し指が挟まれた。	54	166	7	300 ~ 499
2017	7	13~ 14	部材置場の表示板位置を直し終えて部材が置いてある場所から移動しようとした時、パレットに足が引っかかり転んで床に手をついたら右肩を脱臼骨折した。	50	417	2	500 ~ 999
2017	7	8~9	更衣室（2階）から作業場（1階）に向かう階段を降りている際に、最後の一段を踏み外し、右足甲を捻り捻挫した。	34	413	2	100 ~

									299
2017	7	11～ 12	工場内道路を自転車で走行中、道路を横断するグレーチングに幅35mmの隙間があり、自転車の前輪が引っ掛かり、バランスを崩して転倒した。そのときに右足首を捻って倒れ、右足首を骨折した。被災者は、ヘルメット・安全靴を着用していた。	28	362		2		300 ～ 499
2017	7	13～ 14	高さ80cmの所に置いてある、材料の入ったダンボール箱（1辺40cm前後のほぼ立方体、重量6kg程度）を、使用材料置場へ移動させようと持ったときに、左肩と腰を痛めた。	45	921		19		30～ 49
2017	9	14～ 15	当社作業場内において、パワーリフトを移動させようと引っ張ったときに、後ろに置いてあった箱に足が当たり、後ろに転倒し尻餅をついたときに負傷した。しばらくすれば痛みが引くだろうと自宅静養していたが、なかなか痛みが引かないため受診した。	58	417		2		30～ 49
2017	9	15～ 16	出荷場所で出荷準備の立ち作業中に、台車に通函箱を乗せて移動中の他の作業者が背後からあたった。	37	362		6		30～ 49
2017	9	23～ 24	バスバーAssy目止め作業中に、接着剤が通常より出が悪いと感じた為、接着剤が入っているアルミ製カートリッジホルダーの予備を予熱炉（120℃）にて温め、約15分後交換しようとして予熱炉からカートリッジホルダーを取り出した際、カートリッジホルダーと腕が接触したものである。	38	379		11		30～ 49
2017	9	17～ 18	AC棟1Fの部材置場にて部材整理を行っていた、段ボール3箱（3段積み）の移動・積み替え作業で最下段にあった段ボールを移動させようとした際に、部材を置いていたコンテナに左足つま先が引っ掛かり、部材を持ったまま体勢を崩して左膝を床に打ち付け、左大腿部を骨折した。	33	419		2		300 ～ 499
2017	9	10～ 11	チップ受け入れ工程にて受け入れる製品を直立して待機していた、待機中、急に目の前が暗くなり、咄嗟に両手で後ろのパイプを掴もうとしたが、力が入らずそのまま前方へ倒れた。床に倒れた際に両手をついたが、前方に設備イレクターパイプがあり接触して左顎	33	419		3		100 ～

			部を被災した。意識が無くなってからのことは覚えておらず、気付いた時には左顎から出血していた。					299
2017	10	16～ 17	NC作業中、フランジチャックキズが発生した為、主軸を回転させペーパーをかけている際、右手がチャックに触れたことで驚き、右側の刃物に当たって薬指を負傷した。	31	151	8		30～ 49
2017	10	16～ 17	工場内製造現場（クリーンルーム）でスプレーポンプの部品加工の為（ターンテーブル式）に部品をセット作業中、部品が斜めになったのでこれを修正しようとしたところ、指がターンテーブルに引っ掛かり、指を抜いたが製品と底蓋圧冶具の間に指が挟まり、左手人差し指先部分を受傷した。	61	169	7		100 ～ 299
2017	10	19～ 20	積層小型レイアップ工程にて、作業テーブルから上段／下段が二段式の完了製品搬出用コンベア装置に製品を移載する作業を行っていた。装置は3つのスイッチ操作（上段／下段／下降）で作業テーブルを上下させる仕組みだが、被災者は下段を選択したつもりで上段スイッチを押して作業をしていたため、下段側に製品を挿入している際に作業テーブルが上昇し、キャリアプレートと装置開口枠間に両手の人差し指と中指を挟んだ。	48	169	7		500 ～ 999
2017	10	3～4	着荷場に空リール端子箱を平台車で運搬し端子空箱を指定の場所に積み上げた。平台車が8段溜まったため、資材エリアに平台車を移動しようと背面に移動し運搬した。平台車運搬時に横に積み上げている特大リール梱包箱が倒れてきて、その弾みで尻もちをつき、倒れてきた特大リール梱包箱が左足脛にあたった。	33	611	5		300 ～ 499
2017	10	15～ 16	第二工場内でNC旋盤作業工程にて、ワーク（材料）を加工治具（ワークを挟む為、3個爪）にて、セットする際に右手でワークを3個爪で押さえた時に爪に指がかかっているかを確認しないでペダルで3個爪を固定してしまった。すぐに固定を解除したが、すでに指の爪（右手人差し指）がはがれ皮膚も裂かれた状態になり、指の接	46	151	7		10～ 29



			合は無理で右手人差し指の第一関節で切断と診断された。				
2017	10	12～ 13	当社工場内において、始業時（当人は午後勤務）に作業場に向かって早足で歩いているとき、通路上で方向転換（左折）しようとしたところ、右足をくじき、甲の骨を剥離骨折した。（通路上に障害物や段差はなく、水平だった。）	57	417	19	50～ 99
2017	10	22～ 23	機械操作作業中に吸着エラーが発生したため、それを解除しようと装置が停止していないのに裏側の扉を開け手を入れてしまったところ、可動部分に、右手を挟まれた。	20	167	7	100 ～ 299
2017	10	11～ 12	2階作業場において、ゲーム用ソフトのシール貼り、製品の補充が終わり、次にキャラメル包装を行うため、キャラメル包装工程に向かって移動しようとしたが、足元近くに置いてあったパレットに蹴躓いて、転倒し左足のすねを骨折した。	57	379	2	50～ 99
2017	11	13～ 14	工場内において約2tの電動機を天井クレーンにて移動作業中、右手で操作用ペンダントを持ち、左手で吊りワイヤーを掴み、荷上げを行ったところ、左手中指が、ワイヤーと吊り荷の間に挟まれ受傷した。クレーン操作に気を取られ、左手の状態に注意が疎かになっていた為と思われる。もう1名の玉掛け作業員も左手の状態に気付かず回避出来なかった。	38	211	7	1～9
2017	11	16～ 17	受注した部品の加工中に発生した。生産工程はGT→ベンダーの2工程、製品が細長い形状のため曲げ長さの短い右側は安全手工具で押さえ、左側を左手人差し指先端でバックゲージに押し付けていたが曲げ加工中に左側パンチ側面と製品端面に押さえていた人差し指先端右側面を挟まれた。	53	154	7	50～ 99
2017	11	17～ 18	工場作業エリア内において、チューブの配線をしていた。誤ってチューブカッターを握ってしまい右手人差し指を切傷した。	40	364	8	50～ 99
			当社の成形現場（アニール作業エリア）にて、アニール製品取り出し用の昇降台車から運搬用平台車に製品（約50kg）を乗せ換える作業をしていた。同僚と二人で合図を出しながら製品（約50kg）を				

2017	11	23~ 24	持ち上げ、運搬用平台車に乗せようと、腰を曲げる姿勢を取ることとなった。定常的に行われている作業であり、被災者は特別に不 安全とは感じなかったが、以前から腰に若干の痛みを抱えており、 この時の作業を発端に腰の痛みが激しくなり、夜勤であったことから 当日の受診はせず、翌日病院に行った。	35	611	19	~ 499	300
2017	11	3~4	工場内で、スモッグルーム出入口下駄箱で靴に履き替えていた。 靴を履ききっていないにもかかわらず、脇見をして、左足を踏み出 し右足を踏み出した時、バランスを崩して転倒し負傷した。	61	417	2	~ 299	100
2017	11	11~ 12	エンジン組立職場へ部品を供給するための自動運搬車にハウジング と呼ばれる部品（20kg程度・円盤状）を積み込む際に、部品の向き を間違えたため向きを変えるために部品を回転させた時に、両手が 交差する姿勢になり部品を保持できなくなり手から落として被災し た。	34	521	4	~ 299	100
2017	11	16~ 17	半導体製造工程において、作業終了後、建屋1F出入口より退出しよ うとしたところ、玄関滑り止めマットに躓き前のめりになり転倒 し、1F出入口下り階段の角に右膝を強打し負傷した。	53	417	2	~ 999	500
2017	12	13~14	訪問した病院内で麻酔器の点検の為、作業所まで他の1名と廊下を 移動していた。進行方向の前側を受け持っていたが、停止する際 にキャスターとキャスターの間のフレーム部分が右足踵に乗り上 がってしまい、踵部分を裂傷した。	51	362	6	1~9	
2017	12	21~22	会社敷地内の駐車場で帰宅途中に、路面が凍結しており足を滑らせ 転倒し左上腕を骨折した。	41	417	2	—	
2017	12	11~12	当社工場内にて高所清掃中、バランスを崩し脚立中段より落下し、 腰を打撲した。	78	371	2	1~9	
2017	12	11~12	工場クリーンルーム内で、二段式の踏み台にのって装置の清掃作業 中、作業を終えて踏み台から降りる際、後ろ向きで降りたため、1 段目の踏み台から足を踏みはずし、そのまま後方へ落下し、後頭部	54	371	1	~ 9999	1000

			を床にぶつけ、打撲した。				
2017	12	21~22	生産棟（A3棟）着荷場で、シート運搬台車を降ろす作業をしていた。1台目を降ろし、2台目を降ろす際に、荷台コンテナのストッパーが上がっておらず、それに気が付かずにコンテナ内から台車を引き出した時に、そのまま台車が落下し、台車の持ち手をにぎっていた指（手）が、着荷場に設置してあった廃棄物コンテナに挟まり、被災した。※センサー（昇降台）の安全機能が破損していた。※ストッパーロックが何らかの原因でかかっていた。	51	362	6	1000 ～ 9999
2017	12	8~9	オフィス内にて、朝のラジオ体操を行っていた際、周囲の人と手が当たりそうになったため、体操をしながら横に移動した際、椅子の脚に引っ掛け転倒し、受傷した。	56	417	2	1000 ～ 9999
2017	12	17~18	駐在している工場に隣接する駐車場にて、駐車していた自身の車両後方から運転席側に歩いている際、照明は届いていたが、足元は車両または自身の影が影響して車止めに気がつかず、躓いて転倒した。	45	419	2	500 ～ 999
2017	12	11~12	事業所建屋外の洗濯機置き場で手袋等の洗濯中、足元の散水用ホースのたわみに足が引っかかり、前のめりに転倒した。その際、咄嗟に右手で体をかばったが、右手小指を強打し骨折した。	66	379	2	50~ 99
2017	12	8~9	被災者は、当社工場内で塗装作業をしているとき、コンベアで吊して動いている塗装品が、次々と作業架台に当たっていき、作業架台がぐらつき、支えようとしたが間に合わず、被災者の右足甲部分に倒れてきた。原因は、普段より作業架台の場所がコンベアに近かったためである。	44	379	5	10~ 29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to：[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_06.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html)